

# 文献ゼミ

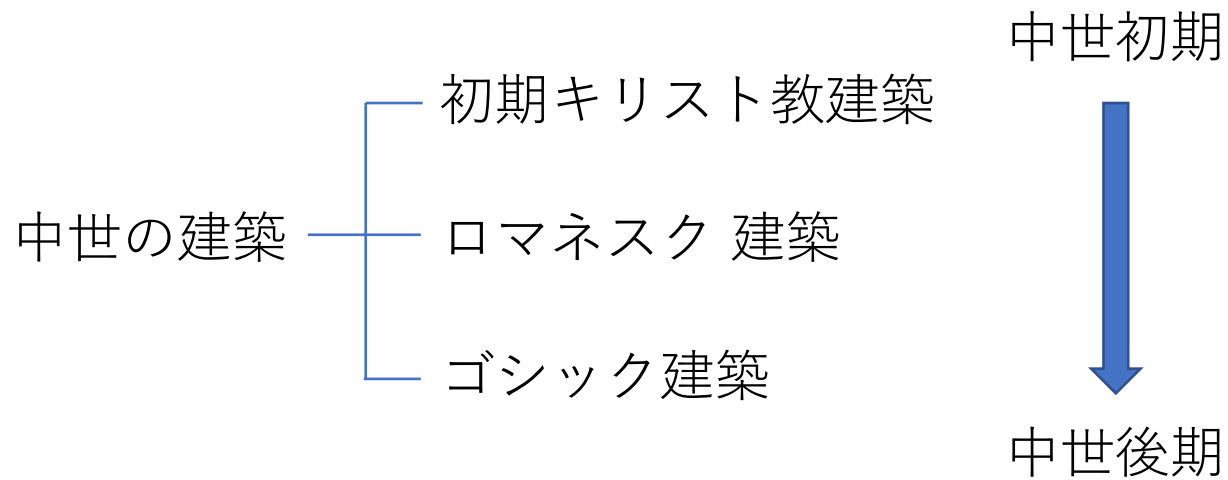
『建築論』 森田慶一 著

西洋建築思潮史

3 中世の建築観

p.180-p.194

# 中世の建築



建築思想も並行して順次成長

# 初期キリスト教時代の建築思想

アウグスティヌス(354-430)

- キリスト教的美論から美しい造形の原理を探究
- 美しき造形の原理は「**統一**」(**unitas**) (単純な数比による尺度関係で理解)

ギリシアの造形原理「秩序」

人間の理性によって観念化

アウグスティヌスの造形原理「統一」

神の信仰に裏付けられた魂によって直感的に認知

# ビザンチン建築の造形理念

(古典の建築観)

## 一、**構造体**と現象的空間の関係

神の住まいの仮の姿



秩序ある調和的な形

## 二、**光**の形而上学

神の本質に属するもの



形態を明晰にする役目

## 三、**装飾性**の認知

本体に付け加えられたあるいは



建築本体そのものの形態のみ

かぶせられた装飾も建築美の要素

# 中世の建築師

中世前半

**無記名的な建築**

石工 実技のみ  
聖職者 会堂建築の造形原理



聖職者の手に負えなくなる

ゴシック盛期

**建築家の出現**

神学に通じた知識人

# ゴシックの建築思想

信仰と理性、神秘と合理という矛盾する要素の調和

美の源・本質

1. 合理性に属する**比例**→幾何学
2. 神秘性に属する**光**→建築体を構成している材料、  
あるいは装飾から発する色光